

WEEKLY SIGNAL

2020年2月21日(金) 1513号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	2/24 (月)	2/25 (火)	2/26 (水)	2/27 (木)	2/28 (金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券		△ 100	△ 1,000	△ 1,000	△ 500
財政他		△ 800	+ 2,000	△ 4,000	+ 4,700
資金需給		△ 900	+ 1,000	△ 5,000	+ 4,200
主な要因		国庫短期証券発行・償還(3M)			
オペ期日		共通担保 △ 5,800 CP等買入 △ 200 社債等買入 △ 100 国債補完供給 + 100			
オペスタート	祝日	国債買入 + 11,500 共通担保 + 7,000			
(日本)		企業向けサービス価格指数前年比(1月) 日銀毎月報告(2月20日現在)		雨宮日銀副総裁、 日銀主催決済フォーラムで挨拶 片岡日銀審議委員、 滋賀県金融経済懇話会で 挨拶・記者会見(大津市)	東京CPI(2月) 失業率(1月) 有効求人倍率(1月) 鉱工業生産(1月)
(海外)	米 クラフランド連銀総裁、講演 ユーロ圏 ラガルドECB総裁、講演	米 クラリダFRB副議長、講演 米 FHFA住宅価格指数(12月) 米 消費者信頼感指数(2月) 独 GDP(4Q)	米 新築住宅販売件数(1月)	米 新規失業保険申請件数 (22日終了週) 米 耐久財受注(1月) 米 GDP(4Q、改定値) 米 中古住宅販売成約指数(1月) ユーロ圏 マネーサプライ(1月) ユーロ圏 景況感指数(2月) ユーロ圏 消費者信頼感指数(2月)	米 セントルイス連銀総裁、講演 米 個人取得・支出(1月) 米 卸売在庫(1月) 米 ミシガン大学消費者マインド指数(2月) ユーロ圏 CPI(2月) 独 失業率(2月) 独 CPI(2月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初400兆1,200億円から始まった。その後は19日の国債発行等を主因に同残高は減少し、398兆6,300億円で越えた。無担保コールON物は、前積み期と同様に地銀業態を中心とした調達ニーズが強く、新積み期の序盤ではあるものの、週を通して底堅い展開となった。なお同加重平均金利は△0.025%~△0.016%で推移した。ターム物は1W~1M物で、△0.010%程度の水準で出合いが見られた。20日に公表された月例経済報告では現状について「景気は、輸出が弱含むなかで、製造業を中心に弱さが一段と増した状態が続いているものの、緩やかに回復している」とした。来週の主な予定は、国内では28日に失業率(1月)、鉱工業生産(1月)の公表などがある。海外では、24日にラガルドECB総裁の講演、25日にクラリダFRB副議長の講演などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.001 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆円で、週間償還額(約7,700億円)を大きく上回った。発行は、5・10日発行と鉄鋼業やその他金融等の大型案件が重なり、活況となった。発行残高は、先週末の22兆2,855億円から20日時点では22兆6,250億円程度となった模様。発行レートは、概ね0%近辺の出合いであったが、発行残高の多い銘柄はやや強含みとなった。18日に、CP等買入れオベが3,500億円オファーされ、按分レート△0.001%・平均落札レート0.000%であった。今月のオペは今回のみということもあって、ディーラーの応札意欲は旺盛で応札額は1兆円超となった。来週の週間償還額は月末日償還の1兆4,500億円を含み、約1兆6,200億円となっている。発行市場は、月末の大量償還に対し償還超が予想されるものの、発行体の資金調達ニーズは相応にあると思われ、活況が予想される。引き続き、3月期末を見据えて期内物中心の発行が多いと思われる。発行レートは、期内物については0%近辺からやや強含みの動きを予想する。一方、期越え物は案件が少なく0%割れでの出合いが多いと思われる。

<TDB>

19日入札の1Y889回債(2月22日償還)は最高落札利回り△0.1436%(前回債△0.1215%)、平均落札利回り△0.1465%(同△0.1254%)となり、入札後は△0.16%で取引された。21日入札の3M890回債(5月25日償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1216%(前回債△0.1222%)、平均落札利回り△0.1285%(同△0.1283%)となり、入札後は△0.127%~△0.129%のレンジで出合いが見られた。そのほかセカンダリーでは3M887回債(5月11日償還)が△0.13%、同888回債が△0.127%~△0.135%のレンジで出合いが見られた。来週は28日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は、週を通して概ね△0.09%~△0.06%での出合いを中心に推移。ただし、後場に一時的にofferが薄い日もあったことから、△0.10%を下回る水準での出合いも一部で行われた。SC取引では20年171回債の引き合いが多く見られ、21日の発行日前は△0.1%後半の出合いも見られた。他2年405~409回債、5年137~142回債、10年336~357回債、20年164~170回債、30年59・62~65回債、40年9~12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。